

平成23年度 山口県教育委員会と山口県PTA連合会との教育懇談会報告

1 日 時 平成23年11月18日（金）15時～17時

2 会 場 山口県教育会館 3階 第4研修室

3 参加者 県教委 13人 県P連関係者 19人

4 懇談会

(1) 開会行事

- ・山口県PTA連合会会長あいさつ（富川会長）
このような機会を活用して、情報を共有し、双方向の意見交換を図っていききたい。
- ・山口県教育委員会教育長あいさつ（田邊教育長）
子どもたちの健やかな成長のためのよりよい環境づくりへの尽力と山口国体への協力等、山口県PTA連合会の活動に感謝している。教育懇談会も13回目であり、直接意見交換することは、両者が一体となって取組を進めていく上で大変意義深い。



- ・教育懇談会趣旨説明（田中教育問題委員長）

様々な課題の解決に向けて、家庭、学校、地域社会が連携し、児童生徒の健全育成や安心安全を図っていかねばならない。この懇談会を通して問題意識を共有しながら多くの課題について話し合い、今後のPTA活動に役立てたい。

(2) 懇 談（進行—石井教育問題委員）

① 児童・生徒の学力向上について

◎県教委より、学力向上、やまぐち学習支援プログラムについて説明

○学力向上について

- ・新学習指導要領は、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力等の生きる力をはぐくむ理念を継承し、これに伴う学習内容や授業時数の充実を行っている。
- ・今年度、35人学級化を全国に先駆けて小1～中3の全学年で実現した。
- ・少人数によるきめ細かな指導の充実を図り、学力向上の推進に取り組んでいる。

○やまぐち学習支援プログラムについて

- ・やまぐち学習支援プログラムの基本問題は、ステップ1～ステップ4まで易しい問題から難しい問題までである。
- ・山口県の地域素材を取り入れることで、子どもの興味関心を高めるようにしている。
- ・親子問題は、発想の転換の問題やインド式の暗算の謎解きなど親子で取り組めるいろいろな問題を掲載している。
- ・「やまぐち学習支援プログラム (<https://shien.ysn21.jp/gakushi/>) 家庭版」は家庭学習を支援するものとして、Web上に公開している。積極的な活用をお願いしたい。

(県 P) 学習プリントの問題の内容は更新されるのか。

(県教委) 学習プリントは膨大な量がある。親子問題はもっと強化していく予定である。国語、算数以外のものも今後アップする予定である。

(県 P) やまぐち学習支援プログラムの内容を知っていたという県P連役員は多いが、家庭にはあまり浸透していないと思う。ぜひPRを続けてほしい。

(県 P) 学習プリントの問題を間違った時に、なぜ間違ったのかという解説はあるのか。

(県教委) 「やまぐち学習支援プログラム家庭版」の学習プリントについての解説は載せていない。今後、検討していきたい。

② 児童生徒の健全育成について

◎県教委より、災害に対する防災教育、安全確保の体制づくりについて説明

○基本的な考え方

- ・学校や園では、防災教育、防災管理、組織活動を明確に位置付けた、学校安全計画を作成するとともに、危機管理マニュアルに災害時の対応等を具体的に示し、それらに基づいた日々の実践や防災避難訓練等の実施をとおして、防災体制の確立や教職員の対応力の向上、幼児児童生徒の危険予測・回避能力の育成を図ることが重要である。

○主な取組

- ・専門家と連携した防災出前授業
- ・文部科学省作成の視聴覚教材、防災教育ハンドブックの配付
- ・「学校における危機管理マニュアルの作成指針」(地震発生時の対応)改訂
- ・防災教育ハンドブックの改訂
- ・危険予測学習(KYT)資料集の作成・配付

◎県教委より、不登校、いじめ、問題行動等の現状と対策・改善策について説明

○現状

- ・暴力行為の発生件数は前年度とほぼ横ばい。不登校児童生徒数は減少しているが、小学校6年生に比べて中学校1年生の不登校生徒数が急増する「中1ギャップ」がみられる。

○主な取組

- ・道徳教育等による規範意識の醸成
- ・AFPY(山口県版体験学習)等を活用した人間関係づくり等によるコミュニケーション能力の向上
- ・少年安全サポーターの配置
- ・スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)の活用
- ・家庭用いじめ対応リーフレットの全戸配付(24年度はじめに配付予定)

◎県教委より、携帯電話にかかわる問題、対策等について説明

○主な取組

- ・情報モラル研修会の実施、学校と警察のネット問題連携システムの構築
- ・啓発資料「ネット・ケータイ問題への対応について」の活用
- ・子どもと親のサポートセンター（やまぐち総合教育支援センター内）へのネットアドバイザーの配置

(県 P) 作成されたKYTのワークシートはどのくらい活用されているのか。

(県教委) 交通安全に関するものはかなり活用されている。学級活動の時間、集団下校前等に活用されている。平成22年度は7割の学校からの学習実施報告あり。

(県 P) 不登校は問題行動ではないという話があったが、非行に走って不登校になっている場合も問題行動ではないのか。

(県教委) その場合は、問題行動と絡んだ不登校となるので、問題行動である。行きたいが行けない子どもの不登校は問題行動ではない。

(県 P) 未然防止の情報モラル対策の講師は事業者が多い。親の立場にたてる講師を呼んでいただきたい。



③ 学校・家庭・地域の連携を図るために

◎県教委より、学校・家庭・地域との連携にかかわる取組について説明

○学校・家庭・地域の連携に関する国の動向

○県の取組—「地域協育ネット」について

- ・幼児期から15年間の子どもの育ちを地域ぐるみで見守り、支援するためのしくみ。概ね中学校区を1まとまりとして、幼・保・小・中の連携促進、校区の推進母体となる組織の確保、コーディネーターの配置、小中学校における学校運営協議会の設置などを一体的に進めていく。
- ・県教委の支援—コーディネーターの養成、ボランティアの養成、経費の補助、事例集等による情報提供
- ・期待される効果—地域住民の学校運営への参画と地域コミュニティの力を生かした学校支援、子育て支援や学校支援を通じた地域コミュニティの活性化等

(県 P) 地域協育ネットは子育てを応援する取組ですばらしいと思う。地域協育ネットに非常に期待している。

(3) 閉会行事

- ・山口県PTA連合会副会長あいさつ（倉本副会長）

今後も協議をしながら、県教育委員会と県PTA連合会との密接な関係作りをしていきたい。